

クラス	QA306	担当教員	中村 信次
テーマ	科学的心理学の手法を用いた他者理解・自己理解		
著書・論文	<p>著書『錯視の科学ハンドブック』分担執筆 東京大学出版会 2005 年</p> <p>『視覚誘導性自己運動知覚の実験心理学』単著 北大路書房 2006 年</p> <p>論文『実世界画像を用いたベクション実験』基礎心理学研究 2013 年</p> <p>『水中でのナビゲーション感覚』心理学ワールド 2013 年</p>		
研究課題等	<p>『色に対する潜在的態度--潜在的連合テスト(IAT)を用いた色嗜好分析の試み』日本色彩学会誌 2011 年 他</p> <p>研究課題 運動知覚・空間知覚の実験心理学的分析、色嗜好（“好きな色、嫌いな色”）の発生 機序の検討、方向感覚（“方向音痴”）の認知心理学的検討 等</p>		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：科学的心理学 心理学的研究法 他者／自己理解			
<p><b>目的、内容、方法、授業計画等：</b></p> <p><b>学習目標：</b></p> <p>①意識の科学としての心理学の特徴を深く考え、心理学的な思考方法を身に着ける</p> <p>②自身が日常生活で抱えている疑問、興味、関心を「科学的心理学の作法」にのっとして整理し、心理学的研究の俎上に載せることができるようになる（正しい研究計画が作成できるようになる）。</p> <p>③自身の興味に基づいて具体的な研究計画を作成し、調査実施・分析を含めた卒業論文作成の作業を各自で行うことにより、心理学研究推進の一連の知識を得る。</p> <p><b>学習内容：</b></p> <p>ゼミのテーマとして、「他者理解／自己理解」を掲げました。心理学の究極の目標は「人の心」を理解することです。もちろんそれはとても困難な課題なのですが、我々心理学を志す者には「科学的心理学の手法」という強力な武器があります。多くの優れた心理学的研究は、日常生活の中で得られた素朴な疑問が発端になっています。調査や観察、実験を通じて、他者や自己の心の動きを定量的に分析するという、心理学研究の醍醐味を共に経験しましょう。</p> <p>卒業研究の具体的な内容は、受講生各自の興味に合わせて自由に提起してください（あまり指導教員の研究テーマを意識する必要はありません）。生活に根差した皆さん自身の心理学的関心を、心理学的研究として定量的に検討可能なものにブラッシュアップしていく過程を一緒に楽しみましょう。ゼミでの論文の輪読やグループディスカッションなどを通じて、少しずつ素朴な疑問から心理学的研究へ発展させるように指導していきます。</p> <p><b>授業計画等：</b>（実際のゼミの進め方は、受講生が確定したのちに皆さんと相談しながら決めます）</p> <p>3 年前期：関連文献の輪読（心理学的な思考方法のトレーニング） 卒業研究テーマの選定 後期：予備調査計画の立案、実施</p> <p>4 年前期：調査計画の立案、調査実施 後期：データの分析、卒業論文の執筆</p> <p>2017 年度の卒論テーマ（ご参考までに）：</p> <p>不思議現象を信じる人の思考スタイル、自伝的記憶における視点の役割、親の養育態度が大学生の不決断傾向に及ぼす影響、化粧が対人印象に及ぼす効果、カラーセラピーにおける配色印象の役割、食器の色が料理写真の印象評価に及ぼす影響、色嗜好の安定性に影響を及ぼす人格特性、幼稚園児の描画した絵画の色彩分析、夢に対する態度が夢における色彩記憶に及ぼす影響、などなど</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>専門演習（＝卒業研究）は、大学 4 年間の集大成です（とくに心理の学生では）。卒論で苦労した経験は、その後の皆さんの一生の宝物になるはずです。大学 4 年間精一杯がんばったと胸が張れるように、一緒にがんばりましょう。3 年次から卒業論文の作成を常に念頭においてゼミを進めます。4 年生になると就職活動等、皆さんの将来選 択に関わる非常に大きな事柄が待ち構えています。できるだけ前倒しで卒業論文関連の作業を進め、余裕をもって就職活動と卒論作成に取り組めるよう、スケジュールを考えていきましょう（就職活動関連の指導もゼミ 内で します）。</p> <p>ゼミのメンバーは（教員を含め）、ともに卒業論文（および就職活動）という大きな敵に立ち向かう「戦友」です。皆で力を合わせて戦っていきましょう！</p>			